

平成30年度 事業報告書

※ はじめに

※ 法人の概要

※ 事業の概要

※ 財務の概要

学校法人 朴沢学園

はじめに

○ 東日本大震災からの復興状況

震災発生から8年を経過するところとなりましたが、授業料減免などの措置は、引続き継続しました。

○ 事業計画との対比

(法人全体)

中期計画、中長期財務計画について、従来の「事業計画」への骨子のみの記載という方式を改め、計画事項について、「中期計画」、「中長期財務計画」として、具体的な策定内容の開示を図りました。「中期計画」等を踏まえた単年度の事業計画の遂行状況は、以下の通りです。

☆川平地区再整備事業の適正・円滑な具現化

土地再整備については、東日本大震災被害状況を踏まえ、地域防災を最重要視点として開発行為内容を確定し、関係当局の確認を得て、1月に地鎮祭を実施し、工事に着手しました。施設整備については、高校校舎の新築整備、大学機能付加に係る施設整備について、概ね内容の確定を図り、次年度の確認申請手続に向けて詳細設計の検討に着手しました。土地再整備および施設整備のスケジュールとしては、次の進行を予定しております。

＜第1期工事＞ 明成高等学校の校舎完成予定(2020年11月)

＜第2期工事＞ 仙台大学川平キャンパス内施設及び高大連携教育の充実

＜第1期、第2期通期工事＞

防災の観点から、表土排水加工、地下貯水槽設置、崩落懸念のある擁壁の施設活用に応じた新設と撤去、自然共生キャンパスの実現



☆ 2年継続した経常収支赤字の解消

当初予算に比し、外部資金の獲得増もあり、基本金組入前収支差額において、赤字解消の実現を見ることとなりました。

☆ 人件費抑制策の具体的立案

不採算性が継続している高校部門については、引続き検討を継続し、大学部門については、ストレンクス&コンディショニング、アスレティックトレーニングなど特殊資格保有者について、学校教育法上の教員として明確に位置付け、給与体系の改定を図りました。

☆ 学校教育法に基づく機関別外部認証評価受検対応としての第三者評価実施

2019年度に日本高等教育評価機構の外部認証評価を受検することに伴い、10数年ぶりに、従来の学内の自己点検に加えて、5月、「仙台大学第三者評価委員会」を設置し、外部認証評価対象期間の大学運営について、第三者評価を実施しました。

委員長には、久道茂理事(宮城県対がん協会会長)、委員には、阿江通良理事(日本体育大学大学院教授)、中井憲治理事(弁護士・日本大学法科大学院客員教授)、合田隆史尚綱学院大学学長に就任頂き、次のスケジュールで実施しました。

8月 「第1回第三者評価委員会」

9月 「仙台大学施設の見学及び学生に対する面談」

10月 「第2回第三者評価委員会」

12月 理事会で第三者評価報告書受領

報告頂いた指摘事項等については、次年度以降、大学運営の強化に繋げていくこととしております。

☆ 学園創立140周年という節目への対応としての将来構想内容の確定、歴史資料の文化財指定等の保存措置 など

教育行政における高大接続改革等に連動した高校部門の将来構想について、高校部門において法人部門と連携の下、方向性・内容等を検討し、新学習指導要領の高校分野における完成年度を睨んだ本法人創立145周年までの5か年という中期スパンでの対応内容について構想の整理を進めました。

歴史資料については、次年度が創立140周年となることから、直近10年間の法人運営状況について内容を整理し、周年事業としての資料保存を検討しました。

(仙台大学)

☆ 大学運営に関する学校教育法改正内容を踏まえた運営という意識を明確に示す各種方策の実施(運営の透明性確保、運営への全員参加という共通認識醸成など)

学長のリーダーシップの下、インスティテューショナル・オフィサーを含む定例会議を設置し、運営の透明性確保に資する情報伝達体制を整備しました。

☆「教育の質の保証」について、エビデンスが蓄積できるように各種具体策を遂行

- ・「3つの方針」およびスポーツ科学の原点を踏まえたカリキュラム改定、ナンバリングその他の教育方法の改革など

体育学部単一学部としてのスポーツ科学の教育領域再構築について、検討を継続しました。

- ・教員養成制度改革に沿った教育の実施(再改定認定申請後のフォローなど)

教職再課程認定申請手続に際して、カリキュラムの一部見直しを実施しました。

- ・英語教育改革も含めた実効性ある教養教育の推進

新英語教育の導入2年目に当たり、実施状況の「紀要」への掲載その他、実施目的について、認識の深化を図りました。

- ・ポスト東京オリパラという視点も加味した地方創生の一環としての「支えるスポーツ」を担う人材の育成(プロスポーツ球団<89ers・楽天・ベガルダ>との連携、日本版NCAAの東北拠点化、JSPT資格取得の定着など)

4月、株式会社ベガルタ仙台との「アカデミック・パートナーシップ」締結により、地元プロ球団3社全てとの連携関係を整備するところとなりました。



結果、地元プロ3球団との間の「アカデミック・パートナーシップ」に基づく地域創生型スポーツ社会モデル形成事業が、平成30年度「私立大学研究ブランディング事業 タイプA」で採択され、教育面では、各球団との「キャリアプランニングⅡ」、プロ・スポーツ型「インターンシップ研修」を実施した他、スポーツ社会モデル形成の試みとして、「仙台大学 Presents 仙台 89ERS ホームゲーム」での新体操競技部演技(ハーフタイム)等を実施しました。

大学スポーツ振興事業については、平成30年度のスポーツ庁「大学スポーツ振興の推進事業」に東北で唯一、本学が採択されたことから、「スポーツ局」を設置し「する、みる、ささえる」の視点からの本学のスポーツ活動の活性化を図る取組を実施しました。

2月には、スポーツ庁の増井参事官(地域振興担当)の来学があり、3月には、一般社団法人「大学スポーツ協会(UNIVAS)」の設立に際して、本学池田教授が専務理事に就任しました。

JSPT資格の取得者は、4名でありました。



大学スポーツ振興の推進(仙台大学の取組)



☆地方創生ホストタウン事業である2020東京オリパラ事前キャンプの創造的な推進の実施(ベラルーシ新体操、パラオ柔道、ハンガリー柔道、イスラエル柔道など)

ベラルーシ共和国については、新体操競技に関し、次の取組みを実施しました。

4月 ベラルーシ国立体育スポーツ学院「国際科学学会」で「2020東京オリパラ・ホストタウン事業」に関する発表

6月 事前合宿打合せで白石市と共にミンスク市を訪問

7月 第2回事前合宿「SAKURACAMP2018」実施

11月 駐日ベラルーシ特命全権大使ルスラン・イエシン氏の来学

2月 文部科学省「情報ひろば」で新体操競技体験イベントの開催(スポーツ庁長官、文科省事務次官等 視察)

パラオ共和国については、女子柔道の強化合宿を実施しました。

ハンガリー共和国については、ホストタウン事業としてではなく、同国の柔道連盟との連携活動として、代表選手の合同合宿を実施しました。



(明成高校)

☆入学者増への緊急対応

入学者数が300人を割るという事態に、様々な募集活動を実施しましたが、入学者数の回復には至りませんでした。

☆「手に職・実学」という、他私学に無い基本的特色について、送り手である中学校側に、再度、理解してもらう方策

調理科教育、介護福祉科教育について、地域、諸団体、義務教育学校との連携により、県内他の公立高校にない、高校部門の独自性を基本的特色としてアピールし、関係分野の全国大会などで、各種の表彰を受けました。

☆存続の可否も含めた将来構想について、方向性を確立し、校舎建替えに反映
高校内部に将来構想検討委員会を設置し、方向性を検討しました。

以上の他、本報告書記載事項以外の学校教育法第百十三条等に基づく必要情報等の公開については、設置する大学部門のホームページにて実施しております。

法人の概要

○ 建学の精神・教育目標について

本学校法人の建学の精神は、「実学と創意工夫」であります。そして、「心身ともに健康な人間の形成」ということを、設置する仙台大学・明成高校共通の教育目標としております。大学部門では、この精神、目標を踏まえ、老若男女、健常者・非健常者を問わない全ての人々が対象ということで「スポーツ・フォア・オール」を、また、高校部門では、「プラクティカルラーニング・フォア・オール」を、それぞれ基本理念として掲げております。

○ 設置する学校の入学・収容定員、入学者・在籍者数

仙台大学

(平成30年5月1日現在)

		入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
体育学部	体育学科	300	345	1,050	1,324
	健康福祉学科	100	105	400	417
	運動栄養学科	80	90	320	336
	スポーツ情報マスタイア学科	40	43	160	190
	現代武道学科	40	41	150	178
	子ども運動教育学科	40	48	80	66
	学部計(編入学を除く)	600	672	2,160	2,511
	学部編入学	48	5	96	13
	学部合計	648	677	2,256	2,524
大学院スポーツ科学研究科		23	16	46	34
合計		671	693	2,302	2,558

明成高校

(平成30年5月1日現在)

		入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
普通科		240	191	720	578
調理科		120	87	360	277
介護福祉科		80	20	240	57
合計		440	298	1,320	912

法人全体

(平成30年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
法人全体	1, 111	991	3, 622	3, 470

○理事・評議員・監事について

(平成31年3月31日現在)

	寄附行為上の人数	実員数
理事	14名以内	13名
評議員	29名以内	28名
監事	2名	2名

理事会・評議員会 開催状況

理事会 年5回開催

評議員会 年4回開催

理事・評議員・監事について

(平成31年3月31日現在)

	氏名	選任区分	勤務	兼職名
理事 (14名 以内)	朴澤 泰治	2号	常勤	理事長(仙台大学学事顧問)
	安倍 寿広	3号	常勤	常務理事(総務)・法人事務局長
	佐野 仁	2号	常勤	常務理事(財務)
	櫻井 俊夫	2号	常勤	理事(高大連携)
	遠藤 保雄	1号	常勤	仙台大学長
	佐々木 稻生	1号	常勤	明成高等学校長
	久道 茂	3号	非常勤	(財)宮城県対がん協会会長
	中井 憲治	3号	非常勤	弁護士
	阿江 通良	3号	非常勤	日本体育大学特別招聘教授
	向井 正剛	3号	非常勤	仙台大学名誉学長・仙台大学コンサルタント
	青沼 一民	3号	非常勤	仙台大学副学長
	滝口 茂	3号	非常勤	柴田町長
評議員 (29名 以内)	藤田 努	3号	非常勤	(前法人事務局長)
	橋本 実	1号	—	仙台大学教授
	関矢 貴秋	1号	—	仙台大学教授
	海和 由美子	1号	—	明成高等学校教頭
	高橋 信壮	1号	—	明成高等学校調理科学科長
	鈴木 省三	2号	—	仙台大学教授

	松下 邦雄	2号	—	(大学同窓会顧問)
	二瓶 たけ子	2号	—	(高校同窓会(松操会)会長)
	園部 禮子	2号	—	(高校同窓会(松操会)幹事)
	藤田 努	3号	—	(前法人事務局長)
	佐々木 稲生	3号	—	明成高等学校長
	遠藤 保雄	3号	—	仙台大学長
	安倍 寿広	3号	—	常務理事(総務)・法人事務局長
	朴澤 泰治	4号	—	理事長(仙台大学学事顧問)
	小泉 清一	4号	—	柴田町観光物産協会会長
	櫻井 俊夫	4号	—	理事(高大連携)
	杉本 輝昭	4号	—	(有)グランテル代表取締役
	田中正人	4号	—	(株)菓匠三全専務取締役
	齋藤 進	4号	—	(元仙台空港鉄道(株)取締役社長)
	菅原 正弘	4号	—	仙台大学事務顧問
	阿部 佑	4号	—	阿部会計事務所税理士
	前田 俊夫	4号	—	仙台大学事務局長
	佐野 仁	4号	—	常務理事(財務)
	向井 正剛	4号	—	仙台大学名誉学長・仙台大学コンサルタント
	青沼 一民	4号	—	仙台大学副学長
	吉田 俊司	4号	—	明成高等学校事務長
	鈴木 秀利	5号	—	宮城県登米高等学校長
	紋谷 洋三	5号	—	仙台市立人來田中学校教頭
	内馬場 裕勝	5号	—	(株)豊徳興産代表取締役
監事 (2名)	岩崎 悌二	外部監事	非常勤	(元(株)七十七銀行常務取締役)
	恵美 文雄	外部監事	非常勤	(株)ベガルタ仙台顧問

○教職員について

(平成30年5月1日現在)

	教 員		新助手	職 員
	専 任	非 常 勤	常 勤	常 勤
法 人	—	—	—	10
大 学	115	74	18	67
高 校	50	44	—	16
合 計	165	118	26	93

註)教職員数について 私学事業団「基礎調査票」に基づく数値で、学長、校長を含む。

註)学生数について 私学事業団「基礎調査票」に基づく数値である。

○ 学校法人の沿革

(明治期)

明治12年(1879年)	1月	創設者初代朴澤三代治 仙台市に松操私塾を開設
明治17年(1884年)	4月	私立松操学校に校名を改称 米国教育博覧会に雛形など一斉授業法の裁縫教材を出展

(大正期)

大正15年(1926年)	3月	実業学校令に基づき師範科増設
--------------	----	----------------

(昭和期・戦前)

昭和2年(1927年)		宮城県より師範科卒業生に対し小学校裁縫専科正教員無試験検定認定校として許可を受ける
昭和6年(1931年)	10月	朴沢松操女学校に校名を改称し高等師範科増設
昭和12年(1937年)	7月	財団法人朴沢松操女学園設立(財団法人化) 文部省より高等師範科卒業生に対し裁縫科中等教員無試験検定認定校として許可を受ける

(昭和期・戦後)

昭和23年(1948年)	4月	学制改革に伴い朴沢女子高等学校(全日制)に校名を改称
昭和26年(1951年)	3月	私立学校法制定に伴い学校法人朴沢松操女学園を設立
昭和42年(1967年)	3月	学校法人朴沢学園に法人名を改称
昭和42年(1967年)	4月	仙台大学を開設(体育学部体育学科)
昭和47年(1972年)	4月	朴沢女子高等学校に調理科開設(昭和50年食物科に改称) 調理科に厚生省調理師養成施設併設
昭和49年(1974年)	7月	朴沢女子高等学校が仙台市青葉区川平に校舎を移転
昭和54年(1979年)	10月	学校法人朴沢学園創立100周年記念式典を挙

(平成期)

平成4年(1992年)	4月	朴沢女子高等学校を明成高等学校に校名を改称
平成7年(1995年)	4月	仙台大学体育学部健康福祉学科を開設 健康福祉学科に厚生省介護福祉士養成施設を併設
平成8年(1996年)	4月	明成高等学校食物科を調理科に改称・男女共学化
平成10年(1998年)	4月	仙台大学大学院スポーツ科学研究科(修士課程)を開設
平成11年(1999年)	1月	学校法人朴沢学園が河北文化賞を受賞
平成11年(1999年)	11月	学校法人朴沢学園創立120周年記念式典を挙

平成14年(2002年)	4月	明成高等学校普通科を男女共学化
平成15年(2003年)	4月	仙台大学体育学部運動栄養学科を開設 運動栄養学科に厚労省栄養士養成施設を併設
平成18年(2006年)	12月	仙台大学・明星大学通信教育学部間で小学校教員養成に関する教育業務提携開始
平成19年(2007年)	4月	仙台大学体育学部にスポーツ情報マスメディア学科を開設
平成20年(2008年)	3月	仙台大学が財団法人日本高等教育評価機構より機関別認証評価の認定を受ける(平成26年度末まで)
平成20年(2008年)	4月	仙台大学体育学部にスポーツ情報マスメディア研究所を設置
平成21年(2009年)	4月	仙台大学大学院に修士課程1年コース設置
平成21年(2009年)	4月	明成高等学校に介護福祉科を設置
平成23年(2011年)	3月	東日本大震災が発生し、仙台大学学生3名が津波の犠牲となり、仙台大学・明成高等学校とも、施設面で多大な被害が発生
平成23年(2011年)	4月	仙台大学体育学部に現代武道学科を開設
平成23年(2011年)	7月	学校法人朴沢学園教育歴史資料が仙台市有形文化財として指定を受ける
平成24年(2012年)	1月	明成高等学校調理科リエゾン・キッチン活動が河北文化賞を受賞
平成25年(2013年)	4月	仙台大学スポーツ情報マスメディア研究所および生涯学習に関する組織をスポーツ健康科学研究実践機構に統合・再編成
平成25年(2013年)	8月	明成高等学校隣接地(法人用地)に、東日本大震災により使用不可となった高校グラウンドの代替グラウンドを含めた、大学・高校共用の川平明仙フィールドを整備
平成26年(2014年)	3月	仙台大学が財団法人日本高等教育評価機構より機関別認証評価の認定を受ける
平成29年(2017年)	1月	明成高等学校男子バスケットボール部がウインターカップ3年連続優勝などにより河北文化賞を受賞
平成29年(2017年)	3月	中国青海省より国際共同研究遂行に対する顕彰を受賞
平成29年(2017年)	4月	仙台大学体育学部子ども運動教育学科を開設
平成29年(2017年)	11月	仙台大学50周年記念 I F E (International Friendship Event) 開催
平成30年(2018年)	1月	仙台大学50周年記念式典を挙行

事業の概要

1. 法人事務局(含む大学・高校共通)

◎ 外部調査受検など

宮城県の「私立学校実態調査」のヒアリング、監事監査の他、公認会計士監査を10回、受監しました。

◎ SD研修 8月8日～9日、「学校法人朴沢学園SD研修会」を実施しました。

◎ 高大連携

設置する高校部門から大学部門に進学する学生の保護者間の情報共有組織である「明仙育進会」の関係行事を、各種、実施しました。

この他、大学部門の同窓生教員も交えた「中高大連携会議」、「高大連携関係者情報交換会」等を実施しました。



◎ 国際交流 高校部門、大学部門における主要事業は次の通りです。

6月 瀋陽師範大学国際交流協定10周年記念事業
「体育教育短期研修プログラム」実施

7月 上海体育学院 協定更新締結調印、「卓球競技サマースクール」派遣

9月 台東大学「協定校短期交換留学プログラム等」
打合せ

ハワイ大学「アスレティックトレーナー研修
アドバンスコース」実施

瀋陽師範大学「海外武道実習」実施、「国際交流
協定10周年記念式典」参加

11月 在仙韓国領事館との共催による「キムチフェスティバル」
で高校部門の調理科生徒が実施支援

1月 ハノイ首都大学の「開学記念式典(シンポジウム)」
出席

2月 上海体育学院連携子ども運動教育学科「海外保育実習」
実施



- ◎ 卒業生の活躍 米国ゴンザガ大学在学八村 塁君の NCAA バスケットボール活動
- ・日本代表候補に「日本の希望」として招集されW杯アジア予選の突破を託される「アジア1次予選の戦い」
 - 6月 オーストラリアと対戦、79対78 公式戦初となる歴史的金星
 - 7月 台湾と対戦、108対68 二次予選進出
 - 「アジア2次予選の戦い」
 - 9月 カザフスタンと対戦、85対70
 - 9月 イランと対戦、70対56 日本は0勝4敗から4勝4敗
 - ・6月 明成高校において報告会を開催
 - ・米国NCAAでの活躍 「ジュリアス・アービング賞」受賞

希望 が、帰ってくる。

その男は今、世界に最も近い日本人プレーヤーとして、
全米でもその名を轟かせる、弱冠二十歳の大型フォワード。
八村塁が、日本代表に帰ってくる。
日本バスケ史上、最も過酷な一年は今、極めて厳しい状況にある。
今こそ、圧倒的なインパクトが必要だ。
彼の存在は、日本代表チームに
新たなケミストリーを巻き起こすはずだ。
この国のバスケの未来を、高さとパワーで切り拓け。





2. 仙台大学 実施事項のうち主要な事項は、以下の通りです。

(地域協働・貢献)

- 7月 「柴田町トップアスリート事業」の一環として未来先生「仙台大塾」実施
- 8月 柴田町議会議員との懇談会
「地方大学振興法」制定をふまえ「知の拠点・仙台大学」と「地域」との連携・協定の在り方などに関し意見交換
- 8月 宮城県教育委員会主催「熱中症事故防止研修会」実施
- 10月 「2018東北こども博」実施
- 3月 みやぎジュニアトップアスリートアカデミーの次年度プログラム等検討
- 3月 「運動スポーツ習慣化促進事業2019」柴田町協議



(研究)

- 11月 「第14回スポーツシンポジウム」
鈴木スポーツ庁長官 「スポーツが持つ力と地域活性化」基調講演
- 12月 仙台大学大学院「開設20周年記念セミナー」開催
深代東京大学大学院総合文化研究科教授 基調講演
「体育・健康、スポーツ分野の高度な専門指導者育成に求められる大学院の役割」



3. 明成高等学校 実施事項のうち主要な事項は、以下の通りです。

(高校運営)

7月 第1回学校関係者評価委員会、3月 第2回学校関係者評価委員会

(高校地域協働)

3月 宮城県大郷町との「官学連携に関する基本協定」締結
調理科

- ・「仙台みそ」を活用した食の学びの取り組み
- ・「仙台白菜」を活用した食の学びの取り組み
- ・「仙台かぼちゃ」を活用した食の学びの取組み
- ・全農みやぎ・JAみやぎ亘理「春菊プロジェクト」の取組み
- ・「そば」を活用した食の学びの取組み
- ・インドネシア人留学生との「ハラム芋煮」を活用した食の取組み
- ・岩出山あら伊達な道の駅との商品開発取組み
- ・「春菊プロジェクト」の取組み



4 スポーツ分野 大学部門・高校部門 在校生の活躍

(大学漕艇)

「第40回全日本軽量級選手権大会」

男子エイト優勝、女子舵手なしクオドルプル優勝

「第45回全日本大学選手権大会」

全13種目中12種目出場、11種目入賞、

8種目決勝進出、男子クオドルプル優勝

(大学テニス)

「平成30年度東北学生テニス春季トーナメント」 男子シングル初優勝

「平成30年度全日本大学対抗テニス王座決定試合・東北地区大会」 女子2連覇

「全日本大学対抗テニス王座決定試合」 出場権獲得

(大学柔道)

「河北新報旗争奪東北学生優勝大会」 女子柔道部12連覇

「平成30年度全日本学生柔道優勝大会」 女子ベスト16

「2018全日本学生柔道体重別選手権大会(全日本インカレ)」 女子57kg級3位



(大学体操)

「第 72 回全日本学生体操競技選手権大会」 団体男子 5 位、男子あん馬 2 位、床運動 3 位
(大学サッカー)

「第 42 回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント」 2 回戦敗退 駒澤大学
(大学バトミントン)

「第 69 回秩父宮・秩父宮妃杯争奪全日本学生バドミントン選手権大会」
女子ダブルス ベスト 3 2

(大学エアリアル)

「第 29 回ユニバーシアード冬季競技大会」 千葉隆人選手日本代表選出

(高校体操)

「平成 30 年度全国高等学校総合体育大会」 男子団体 第 10 位

(高校男子バスケットボール部)

「平成 30 年度全国高等学校総合体育大会」 男子バスケットボール部 3 位

「第 71 回全国高等学校バスケットボール選手権大会」で男子がベスト 8

(高校テコンドー)

JOC ジュニアオリンピックカップ「第 11 回全日本ジュニアテコンドー選手権大会」
戸村仁選手、山本さくら選手、鈴木颯選手全員優勝、 8 月仙台市長表敬

(高校スケルトン)

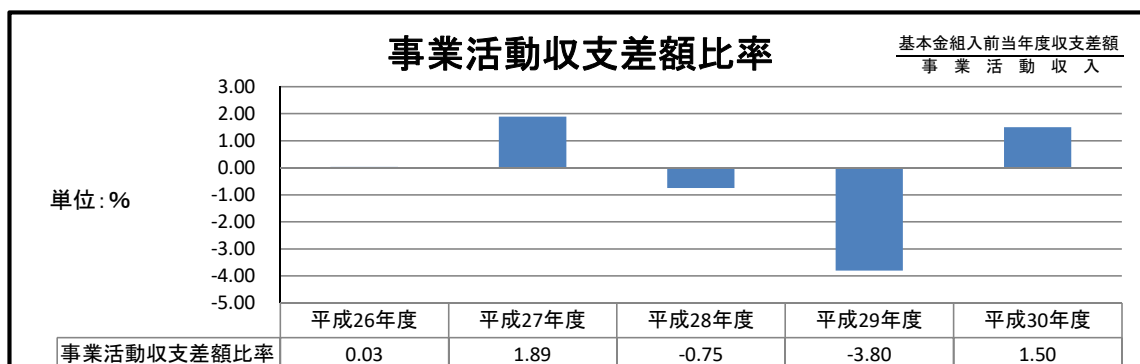
「2018 年全国日本プッシュスケルトン選手権大会」 木下凜選手優勝、郷内翔選手 6 位

財務の概要

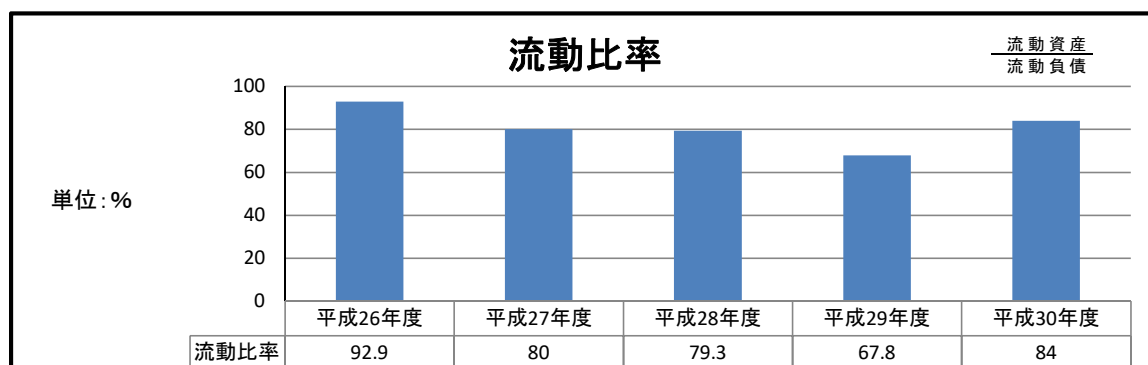
財務状況は、大学部門のホームページ「学校法人情報」に掲載しております平成 30 年度
計算書類のとおりであります。なお、現在、法人部門、高校部門、大学部門各部門のホーム
ページの連動・一体化に向けた作業を実施しており、財務分析経年比較の情報公開について
も、さらに改善を図ることになります。

また、主な財務比率の経年比較は、添付「別紙」資料のとおりであります。

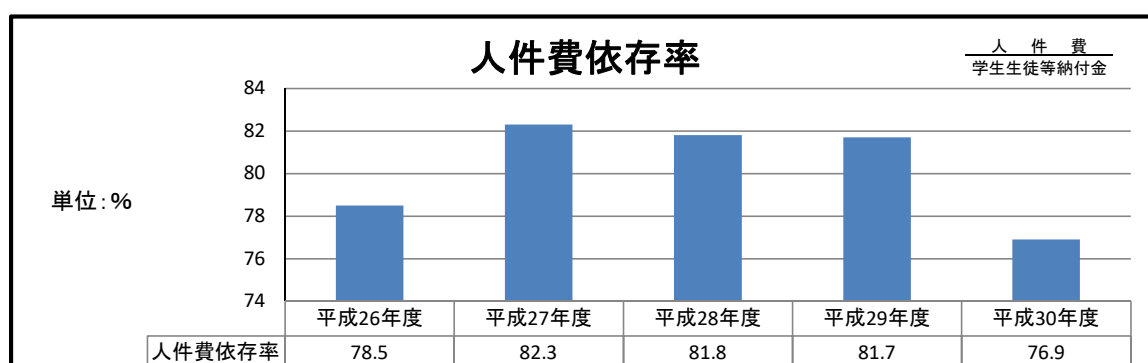
以 上



設備投資計画の無い状態で、10%以上期待。



銀行比率ともいわれ、200%以上あれば信用度は高い。



人件費は、学生生徒等納付金の範囲内に収まっていることが望ましい。

1. 資金収支計算書

収入の部では、前年との増減は次の通りとなりました。

学納金収入	10,663千円の増加となりました。
補助金収入	37,489千円の増加となりました。
付随事業・収益事業収入	10,009千円の増加となりました。

支出の部では、前年との増減は次の通りとなりました。

人件費支出	156,396千円の減少となりました。
教育研究経費支出	95,742千円の減少となりました。
管理経費支出	93,932千円の減少となりました。

合計では、399,190千円の増加となりました。

2. 事業活動収支計算書

収入では、前年との増減は次の通りとなりました。

基本金組入前当年度収支差額	237,416千円の増加となりました。
基本金組入額合計	44,264千円の減少となりました。
事業活動収入合計	94,130千円の減少となりました。

支出では、前年との増減は次の通りとなりました。

事業活動支出合計	331,546千円の減少となりました。
----------	---------------------

当年度収支差額では、281,680千円の増加となりました。

3. 貸借対照表

資産の部では、前年との増減は次の通りとなりました。

固定資産	266,501千円の減少となりました。
流動資産	177,876千円の増加となりました。
資産の部合計	88,624千円の減少となりました。

負債の部では、前年との増減は次の通りとなりました。

固定負債	154,764千円の減少となりました。
流動負債	106千円の増加となりました。
負債の部合計	154,657千円の減少となりました。

純資産の部では、前年との増減は次の通りとなりました。

基本金	13,481千円の減少となりました。
繰越収支差額	79,514千円の増加となりました。
純資産の部合計	66,033千円の増加となりました。

以上